

平成29年度 第1回大竹市子ども・子育て会議

会議録 1

日付	平成29年11月6日（月）
時間	午後6時30分～午後8時
場所	大竹市役所 3階大会議室
出席者 【委員】	委員14名 七木田 敦 （広島大学大学院） 小西 啓二 （大竹市小学校校長会） 宮下 文恵 （大竹中央幼稚園保護者会） 清水 舞圭 （立戸保育所保護者会） 林 未央 （大竹市PTA連合会） 日城 究 （学校法人大竹学園 大竹中央幼稚園） 大知 恭子 （大竹市保育連盟） 角井 賢治 （社会福祉法人 大竹市社会福祉協議会） 田代 智子 （NPO法人 子育てハッピーネットほのぼのん） 日野 浩爾 （一般社団法人 大竹青年会議所） 中村 典子 （連合広島大竹・廿日市地域協議会） 福中 久美子 （大竹市民生委員児童委員協議会） 築地 富美 （大竹市民生委員児童委員協議会） 寺岡 公章 （大竹市青少年育成市民会議）
【事務局】	事務局 米中 和成 （健康福祉部長） 金子 しのぶ （健康福祉部福祉課長） 野島 等 （健康福祉部保健医療課長） 坂井 渉 （教育委員会事務局生涯学習課 課長補佐兼青少年育成係長） 井上 剛 （健康福祉部福祉課 課長補佐兼児童係長） 横山 裕美 （健康福祉部福祉課 主任） 武田 宜裕 （健康福祉部福祉課 主任） 白木 美妃 （健康福祉部福祉課 主任主事）
欠席者	委員1名 村田さつき （知恩保育園保護者会）
議題	（1）大竹市子ども・子育て会議について （2）大竹市子ども・子育て支援事業計画について （3）その他
配布資料	次第 平成29年度大竹市子ども・子育て会議次第 資料1 大竹市子ども・子育て会議委員名簿 資料2 平成29年度第1回大竹市子ども・子育て会議事務局名簿 資料3 大竹市子ども・子育て会議について 資料4 大竹市附属機関設置に関する条例について

	冊子 大竹市子ども・子育て支援事業計画 大竹市子ども・子育て支援事業計画概要版
--	--

会議録 2

【開会】 事務局	大変、お待たせいたしました。 本日は、皆様には公私ともお忙しいなか、お集まりいただき誠にありがとうございます。 私は、大竹市健康福祉部福祉課 金子と申します。本日はどうぞよろしくお願いいたします。 それでは定刻となりましたので、ただいまから平成29年度第1回大竹市子ども・子育て会議を開催いたします。 会議の開催にあたりまして、大竹市健康福祉部長 米中よりご挨拶申し上げます。
【挨拶】 健康福祉部長	みなさん、こんばんは。大竹市健康福祉部長の米中と申します。本日はどうぞよろしくお願いいたします。本日はお忙しい中、大竹市子ども子育て会議にお集まりいただきましてありがとうございます。また、このたびは委員をお引き受けいただきまして、本当にありがとうございます。心からお礼申し上げます。さて、平成27年度から国において保育や地域の子育て支援の量の拡充や質の向上を進めていくための新たな子育て支援の取り組みである子ども・子育て新制度がスタートし、全国の各自治体において子ども・子育て支援事業計画に沿ったさまざまな取り組みが行われているところでございます。本市におきましても平成26年度に大竹市子ども・子育て支援事業計画を策定しておりますが、その際には15人の委員からなります大竹市子ども・子育て支援事業計画策定会議における議論を経て計画が完成しております。このたびご参加いただいております大竹市子ども・子育て会議は後程事務局の方からも説明があると思いますが、先ほど申しました大竹市子ども・子育て支援事業計画の進捗状況をご審議いただくことが委員の皆様に継続的にお願いすることとなる主な役割でございます。今後本市において子育てにやさしい街づくりを推進していくために委員の皆様におかれましては計画の進行管理や見直しなどについてそれぞれの立場から忌憚のないご意見をいただき、より良いものとなるようご尽力いただければと思います。皆様のご協力をよろしくお願いいたします。
事務局	続きまして次第3の委員の皆様のご紹介をさせていただきます。

事務局	配布資料の中に委員の皆さまの名簿がございますが、自己紹介の形で皆様のご紹介をしたいと思います。それでは、大変恐れ入りますが七木田様からよろしくお願いいたします。 <委員あいさつ>
事務局	ありがとうございます。では、続いて事務局もご紹介させていただきます。 <事務局あいさつ>
日域委員 事務局 寺岡委員 事務局	皆様へご案内ですが、この会議は、大竹市附属機関設置に関する条例で定める市長の附属機関になっております。同条例第8条第2項により、会議は委員の半数以上の出席で成立することとなっています。 委員総数は、15名でございます。本日は14名の出席ということで半数以上となっておりますので、会議は成立していることを報告します。 続きまして、次第4の会長及び副会長の選出を行いたいと思います。 大竹市附属機関設置に関する条例第7条第2項に「会長及び副会長は委員の互選による。」と規定されています。 会長・副会長につきまして、自薦・他薦がございましたら、ご発言をよろしくお願いいたします。 ご発言が無いようでございますが。 私が会長をします。 それでは副会長の方は。 私がします。 それでは今それぞれ立候補がありましたので、会長は日域委員、副会長は寺岡委員ということでよろしくお願いいたします。 <会長席、副会長席へそれぞれ移動> それでは今からの進行につきましては、正面の会長席及び副会長席にお移りいただきました、日域会長、寺岡副会長に一言ごあいさつをいただいた後、会議を進行していただきたいと思います。よろしくお願いいたします。
会長	この子育てというのは非常に大事なことです。また、これから大竹市も公立保育所をどうするかという話もあり、そういうことも含めてぜひこの会議を意味あるものにしたいと前から思っておりましたので、このたび手を挙げさせていただきました。どうぞよろしくお願い致します。
副会長	副会長を務めさせていただくことになりました寺岡です。名簿を拝見しますと色々な場所から、色々な立場のみなさまがお集まりいただいています。それぞれがそれぞれに色々なお知恵をお持ちだと思います。その皆さん方の意見がしっかりと出ることがこの会議が成功することにつながると思いますので、しっかりと真剣に話をするところは話をしながらも、和やかな雰囲気忘れずに、皆さんが意見を出しやすいような雰囲気ができればいいと思います。しっかりと会長を支えていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。 <事務局より本日の配布資料及び議題について説明>

【議事 1】 会長	それでは、議題に入ります。最初に、「(1) 大竹市子ども・子育て会議について」を議題といたします。 事務局は説明をお願いします。
事務局	＜「大竹市子ども・子育て会議」の役割等について資料説明＞ 平成27年4月から子ども子育て支援新制度がスタートし、同時に「大竹市子ども・子育て支援事業計画」も計画期間に入っており、本来であれば、平成27年度・28年度中もこの会議を開催すべきであったのですが、これまでに、新たな保育所や幼稚園の定員設定など、早急に対応すべき、また審議すべき議案がなかったことや、計画がスタートし、間もないということで、計画の見直しの必要性について想定し難い状況であったため、第1回目の会議がこのような時期になりましたことを皆さまにお詫び申し上げます。 本来、この会議は、大竹市の子ども・子育て施策の推進にあたり、保護者の方を含む子ども・子育て支援に関わっておられる方から、様々なご意見や考えをお聞かせいただきそれを参考にさせていただくことが、一番大きな目的です。委員の皆さまにおかれましては、それぞれお互いの立場を尊重しながら、未来志向のより良い会議となることを大いに期待しておりますので、どうぞよろしくお願いします。 次に、本日の会議の記録やお配りした資料についてですが、市の「行政文書の積極的な公表に関する要綱」第2条により、審議会等附属機関の会議資料や記録について、積極的に公開すべきものと規定されております。 この中で、会議録につきまして、作成形式、決裁方法をどのようにするかについて、委員の皆様のご了承のもと、決定する必要があります。事務局といたしましては、先ず、会議における発言の趣旨をまとめた議事要旨という形で作成したいと考えております。また、作成した議事録の確認方法といたしましては、会長及び副会長に確認をしていただき、決裁を受けるという方法ではどうかと考えております。ただし、各委員のご発言に関して、重要な課題の場合や、ご本人に確認した方が良いと考えられる場合は、会長、副会長だけではなく委員の皆さまにもご確認をお願いさせていただこうと考えています。
会長	それでは、まず、「子ども・子育て会議」の役割に関するただいまの説明につきまして、ご質問がございましたら、ご発言をお願いします。
副会長	今の説明の中で守秘義務の情報公開に関してどのようになっているのか。情報公開請求があったとき、記録の取り方によっては公表できないケースも出てくるのではないかと思いますので、もう少しその辺りを詳しく説明をお願いします。
事務局	個人情報情報は公開しないことはもちろんですが、その他微妙な部分も出てくると思われます。我々事務局もその都度検討し、会長、副会長にも相談しながら決めていきたいと思っています。

会長	この議事録ですが、平成 27 年度からこのような制度になり、その前には新しい制度に向かって活発に各自治体が会議の議事録の公開をやっています。広島市はホームページで公開しています。廿日市市も要約を PDF でネット上で公開していました。大切なことですので、大竹市でも公開してほしいと思うのですがいかがですか。
事務局	これまでの会議の記録については公開されていなかったと思います。今後この会議を開くにあたって、他市町の状況も調べておりまして、ほとんどの自治体で記録はホームページ上で公開されていますので、我々も積極的に公表していくべきだと考えております。
会長	守秘義務ですが、守秘義務を課してまでするようなレベルの高い、立ち入った会議にしてほしいなと思います。会長として事務局にお願いでございます。よろしくお願いします。
委員	議事録に関してですが、守秘義務に関することを含めて、発言にも責任がありますので、一度全員にこのようにしますということを案内していただいた方が助かります。
事務局	今ご意見いただきました。皆様の総意ということであれば、我々でそのように致しますのでよろしくお願いします。
会長	慎重にかつ大胆によろしくお願いします。
事務局	議事録の回覧、お渡しする方法ですが郵送かメール等とそれぞれにご相談させてもらうという形でよろしいですか。それとも全員郵送という形にした方がいいでしょうか。
委員	私は一斉に郵送していただいたものを、期限までに回答という形で送っていただければ助かります。郵送でもメールでも構いません。
会長	メールか郵便かでチェックを受けてそれでよければ完成ということでしょうか。
【議事 2】	ないようですから、次にいきます。 それでは、次の議題に入ります。「(2) 大竹市子ども・子育て支援事業計画について」を議題といたします。 本議題については、計画を策定した当時の委員さんもこのたびのメンバーの中に一部いらっしゃるようですが、そのほかの方については、計画そのものについてよく御存じない方も当然いらっしゃると思いますので、そのあたりも踏まえ、これまでの経緯などを含めて、事務局より計画の中身について、できるだけわかりやすくご説明いただければと思います。それではよろしくお願いします。
事務局	<議事(2) 大竹市子ども・子育て支援事業計画について計画冊子及び計画概要版冊子で説明。>
会長	「大竹市子ども・子育て支援計画」(青い冊子)の P36 の 1 号認定の確保方策の 280 という数字の根拠があれば教えてください。
事務局	これは計画策定時に、会長とお話をさせていただいたことがあるかと思い

会長	ますが、大竹中央幼稚園さんの定員が記載されております。大竹中央幼稚園さんは子ども・子育て支援新制度の給付を受ける施設にはなっていないのですが、計画策定時には新制度に移行していない幼稚園も含めて、確保方策の数値を考えるとという方向性が示されておりましたので、これらの中に入れさせていただきます。 幼稚園の定員は、施設とか面積とか部屋の数とかそういうことで決まっています。だから、私立の旧制度の幼稚園を見ると定員がとても多い。280 人というのは昔の数字であって、もう何十年も大竹中央幼稚園に 280 人もいたことはありません。利用者が 280 人もいたら寿司詰め状態です。昔はそれでもよかったんですが今はあり得ません。こういう部分もきちんと理解してもらって、初めてこういう集まりが有意義なものになると思います。ぜひその辺よろしく願いいたします。 今、事務局からいただいた説明について、何か質問があれば挙手をお願いします。
委員	この計画は平成 27 年度から実施されているのであれば、今 2 年と半過ぎているわけです。その中で、計画を取り組まれてみての課題や、今後重点的に取り組むべきことや改善点など説明ができれば、今後の会議の中の目安になると思いますので、お願いをしたいと思います。
事務局	子育て支援にかかる課題は多岐に渡ってあるのですが、保育所、認定こども園、幼稚園の量の見込みと確保方策について説明させていただきました。この見込値の推移を見ていただきますと、平成 27 年度から 31 年度にかけて、概ね減少傾向の数字をあげております。これは全国的な少子化を背景として、こうした数字がでているところではありますが、昨今、女性の就労促進や男性も女性も同じように働くようにという、全体的な傾向等がある中で、子どもの数は減っていながら、入所の希望は非常に増えています。大竹市におきましても近年、希望の保育所に入れるかどうかということにつきましては、地域性などあるのですが、希望通りにはならないけど、第 2、第 3 希望には入れますという状況はありました。そういった形での待機児童は出ていないという状況ではありましたが、昨年度くらいから、中途希望者が非常に増え、今年度では 4 月 1 日現在では、昨年度の 4 月 1 日現在の入所数を大きく上回っている状況で、中途の受入は非常に大変な状況となっております。今後そういった方々を含めてどのように受け入れていくのかというところが、まず大きな課題であると我々は認識しております。
委員	先ほどお話が出ました、1 号認定者というのは、家で見える方がいらっしゃる子どもの確保枠であって、2 号認定者というのは、家で見られる方がいない 3 歳～5 歳の確保枠。現在なかなか中途入所希望があっても難しかったり、働くお父さん、お母さんが増えているのであるならば、ここの数が見込値と確保方策が、もう少し枠をとられてもいいのではないかと思います。
事務局	最初に配布資料を配らせてもらった時に、資料 5「平成 29 年度会議予定に

委員 事務局	ついて」で会議の内容、大竹市子ども・子育て支援事業計画の中間見直しについてという内容を記載させていただいています。これは5か年の計画のちょうど今年度は中間年にあたります。現在の計画数値が実情に対してかい離がある場合には、国から判断の目安が示されているのですが、かい離が大きいと判断する場合には市町の実情に応じて計画の数値変更などを行うようにということで、現在広島県には計画の数値を変更する案を出しています。今後県からのヒアリングを受けることになっています。次の12月の会議では、我々がどういった数値の変更を行うかということにつきましてお示しをする考えでおります。その中ではこの全体的な少子化による見込値の減少傾向について反映された数値につきましては、このような下がり方はしないのではないかとということが反映されております。ですので今後ご説明させていただこうと思いますが、果たしてその数字でいいのか、だったらどういう保育が必要なのかということを、みなさまのほうでご議論いただく状況が出てくるのではないかと考えております。 今年度は中間年で見直しをされると思うのですが、順番が逆で、この会議で話し合っ、こちらで意見をいただいたからということで修正案を出されるのが筋ではないですか。広島県に修正案を出されてから、持ち帰ってこちらで話し合うというのはどうしてそうなるのかというのが1点あります。あと、他市町の子ども・子育て会議の委員を5市町やっていますが、他の市町に関しては来年度から見直しを実行するうえで、既に見直しの数字が出てきていて、その見直しの議論をしている。例えば、大竹市の場合は2月に見直しのことをして、4月に始まると果たしてそこで動いていけるのかなという不安があります。そして、もう1点、平成27年度からの5年計画で31年度までの見込値が出てきていますが、これが既に変更されている市町等があって、大竹市はもう既にその値を持っているんだろうなと思います。ただ、確保方策が見込値に不思議にぴったりで、本当にその数字で大丈夫なのか、スペースや保育士の数を考えて、確保方策を練った数字なのか心配しています。 1点目の順序につきましては委員さんがおっしゃられるように、会議で出してこれはどうなのかと、その上で数字を県の方に出すというのが本来筋であると我々も認識しております。単純に日程調整や色々な進め方の中で、順番が逆になってしまっていることに対して大変申し訳ないと考えております。県の担当の方へは、会議がその後に開かれるようになっていることは説明をさせていただいているところです。 2点目の確保方策の数字がぴったり合っているというところですが、まず現状を申しますと、27年度、28年度あたりの数字は、大竹市の公立保育所の状況でいいますと、現実的には定員割れをしているという状況があります。子どもの待機が出る、出ないという話をしているのに、どうして定員割れという話がでるのかというところですが、純粋に保育士の数が不足しており、定員いっぱいに入受ができないという状況があります。それからもう1つは、
----------------------	--

	最近では年齢別保育，特に0歳児保育では推奨されていますが，これらの施設等の課題があります。大竹市におきまして必要十分な施設，設備の提供という大きな課題を抱えている中で，先ほどの保育士の不足も合わせまして，定員割れをしております。ですから，27年度，28年度頃の状況で言いますと，そのお子さんに関しては受け入れる状況の中で，その後，見込値として人口減少により，子どもの数は減っていくだろうということであれば，最低限その数については確保していきましようという意味で同じ数字をあげていたところではあります。そして，現状としてそれは難しいのではないかと状況が生まれつつあるということです。
委員	であれば，難しいという認識をこの場でみなさんが共有されて，それで意見を言った方がいいのではないかと思います。例えば2号認定，3号認定に関しまして，トータルの値，例えば各保育所の数値を立てるわけで，そうするとどこの保育所が増えて，受入に過不足が生じているかが見えやすく，我々も理解しやすい。おそらく見直し案ではどこの市町もそうやっていますので，ぜひそういう値を出していただいた方が理解しやすいと思います。併せて，放課後児童クラブも集計値が出ていますが，学校区で出し，どこがどのくらいの不足があるのか示してもらったらいいかと思います。
事務局	各保育所の具体的な状況が分かる数字につきましては，資料として示せるようにしていこうと思います。また，放課後児童クラブにつきましても，計画上の数値については，修正の必要があるのではないかとというのが現状出ておりますので，そのあたりも合わせてご審議いただくようにさせていただきたいと考えております。
委員	放課後児童クラブですが，2月に議論して，4月にスタートと言っても出来上がったものに対して委員が了承する程度の話しかできないと思うのですが，他の市町でもすでに見込値が出ていて，児童クラブの修正が一番大きいんです。4～6年生の利用希望と実際の利用希望のギャップがもうすでに修正値が出ていたりするので，それは早めにやっておいた方が4月の段階で間に合い，放課後児童クラブで待機児童が発生という話にならないですむかと思うますので，ぜひお願いしたいと思います。
事務局	高学年の児童に関しまして，確保方策で数値を出さしてもらっていますが，実際の申込の状況とギャップがありますので，再検討していきたいと思ます。
委員	もしできるのであれば，母子健康手帳を交付するときに，復職の意思はあるのかとか，何歳児で復職するのか等ニーズの把握の仕方がもう少し早い段階であれば，確保方策や，保育士が減少しているというのも分かります。先生方も結婚されて，出産されてというのがあろうと思うので，もっと早い段階でニーズをつかむということをしていただけたらいいかと思います。
委員	施設の定員は枠があると思うのですが，先生の数によって，受け入れる人数が違ふのであれば，その人数が本来の定員だと思いますので，その辺を

事務局	しっかり把握されないと、施設は受け入れますが、先生がいないから無理だ というのではきちんとした情報になっていないので、そこは考えていって いただきたいと思います。 その部分につきましては、我々もどのように配慮すべきかと思うのですが、 年齢別保育をしっかりとすることにあたっての保育所の不足というのは 大きい問題です。特に低年齢児、3歳未満児の入所希望が増えて居ますので、 そこで年齢別保育をしっかりとできる人員体制を確立できれば、全体的なか い離というものは無くなっていくのだろうと考えます。そこに関してどのよ うにしていくかというのが大きな課題であると考えています。
会長	公のルールの中の話で、事業計画の35ページに保育認定段階の1号、2号、 3号とあります。今は子ども・子育て会議ですから、両親が働いている子ど もをどうするのかという話ではなくて、もっと広く子ども・子育てですから 大きな問題はそこにあるわけです。認定こども園は最初から私が一番期待し ていたのが何もされないところですが、昔でいうと保育に欠ける、保育が必要 かどうかになるんですが、お母さんが家にいれば問題ないのかというところ でもなく、3歳以下でも家にいるのはよろしくないと思っている方は結構 おります。幼稚園で2歳の子の保育を認めるとか新聞にありましたが、と にかく国が言うことはきちんと守ってやらなければならない。だけれども、 国が言うことをそのままやればいいのではなくて、地方自治体は、自らの思 いで、たまには国とけんかするくらいの迫力で踏み込んだら、大竹市の素晴 らしい子ども・子育てが実現すると私は思います。今保育士さんがいないか ら、実際はもう預かれないと言われました。これは重い発言だと思います。 それは、募集しても来ないということですか。
事務局	特に年度中途の募集は、一年中募集をかけている状態です。どこの自治体 もそうだと思うのですが、応募される方が少ないといった状況です。
会長	保育所の場合、臨時さんが多いですね。今日の日本経済新聞ですけど、 行政の臨時職員の待遇について、来年、再来年くらいから、退職金を出す とか、賞与を出すとか相当変わる感じですよ。大竹市はその辺を踏まえてどう するのか気になりますが、最終的には公立保育所をどうするのだという問題が ありますが、私は公立保育所を残すことには反対です。公立保育所と私立保 育所では国からのお金の付き方が違いますから、財政的にも不利だと思いま す。保育所の児童の受け入れについて、今いろんな問題が出ましたが、また 修正していけたらいいなと思います。
事務局	今、会長が言われたとおり、保育所の再編につきましては、今後議会の方 でもお答えしているとおり、具体的に示していきたいと考えております。そ の前に言われました保育士の処遇に関しましては、私も今日の新聞を読んだ 一人ですが、税制や扶養の方も合わせて考えていただかないと、現状の保育 士不足は働き方を多様に求められるというところで、いくら賃金をあげても、 なかなか募集がないという問題もあろうかと思っています。いろんな問題を含め

	ての、保育士不足であり、今後示させてもらう大竹市の公立保育所の再編にも大きく関係する話かと思しますので、委員の皆様のご意見をいただきながら進めていきたいと思います。 なお、先ほどの、会議と県に提出する計画の修正と順番の話ですが、順番が逆という話がありましたので、実際県の方には出してはいますが、この会議の中でぜひ意見を出していただいて、話し合った数字で県の方と話をしていくことが本来筋であると我々も考えております。こちら県の方と話をし、ヒアリングの日程は決まっております、次の会議は2月とお示しをさせていただいておりますが、みなさまの日程等調整できれば、それよりも早い時期での開催についても検討させていただきたいと思います。そのうえで、なるべく早く大竹市としての案を県に示していけるような流れを作りたいと考えています。
委員	その際には、27年、28年の実績値もあれば示してもらいたいし、どの程度足りないところがあるかというのがないと助かります。
事務局	実績値についても示させてもらいたいと思います。
委員	事業計画のP36の地域型保育の3号認定者0歳児2件、1～2歳児4件というのはどのような計画性をもって見込んだ数字であるのかお聞きします。
事務局	当時の地域型保育というのは、本市に阿多田児童館があり、児童館というものではなく、将来的に人数も少ない地域で、保育所に変えられないかということがありまして、計画上すぐにできるかどうかはわからなかったのですが、計画の最終年度に反映させてもらいました。当時の利用人数等から、児童館から地域型保育の保育所にできればと思ひまして、このような数値をあげたところです。
委員	いろんな話が出た中で、現役のお母さま方がずっと家でマンツーマンで、外に出たくても出られないということで、預けさせていただく環境が増えていけばいいのだろーと思ひます。民間からも手をあげてくるような流れがあるのか、実際にそのようなことをまとめていくアプローチ法は何かお考えなのかと少し気になりまして、現時点において変化の兆しが見えているのかと思ひ、数値の確認をさせてもらいました。もし大竹市内において、既に認可がおりている保育園以外のところでも新しい流れがどうやったら生まれてくるのかなということと、まだ会議の意味合いが全て頭の中に入りきっていないのですが、もし中身が話し合っていけるものがあるのならば参加していきたいなと思ひます。
会長	では、最後に、事務局よりお知らせ等がありましたらお願いします。
事務局	今後の会議の開催予定ですが、資料には、次回の会議は2月に予定しており、中身については子ども・子育て計画の中間見直し作業と資料議題となっております。先ほどみなさんからのご意見がありましたように、中間見直し案について、会議の意見を反映させる方法を取る場合、来年2月より前倒しになる可能性がありますので、その際はご案内させていただきますのでよろし

会長	くお願いします。 以上をもちまして、大竹市子ども・子育て会議を終了いたします。本日はご協力ありがとうございました。
-----------	---